



舞いの一つひとつ、
そして連続する所作の
流れに見入っていると、
演舞に引き込まれてい
きます。踊りには固有
の精神性が潜んでいる
のでしょうか。「一番
大切なのは姿勢」と言
う通り、背筋の通った
姿勢の連続が緊張感あ
る所作を美しく見せま
す。そして見ている自
分も思わず背筋を伸ば
しているのです。伝統
に培われた所作や美に
は、伝えるべき多くを
もっています。

「必ず45度に足を開く。すると体
がきれいに開いて体幹が伸びるん
です」。

とはいうものの、それを形として
しっかりと表現するには、日々の積
み重ねが欠かせません。札幌で開か
れた全国剣詩舞コンクール北海道地
区予選大会で、初出場で見事初優勝。
9月千葉市で開かれる「日本コロム
ビア剣詩舞コンクール全国決戦大会」
への出場に向けて、日々稽古に余念
がありません。

大雪遊水公園のパーゴラ、B&G
海洋センターの2階道場が町内での
日々の練習場。そして月に2〜3回
は札幌まで出向き、師匠からの指導
も受けます。今、全国大会出場に向
けて練習を繰り返しているといま
す。

「剣道と日本舞踊の形が体に染み
込んでいる。だから踊りの中につい
出てしまう。それを抜くために何年
もかかってしまう」。

10年前、札幌在住の時から始めた、
という短いキャリアながら、早々に
全道優勝まで勝ち取る踊りを会得で
きた影には、長く続けてきた剣道と

日本舞踊という下地の素養があつた
ようです。

加えて、先輩諸氏を退けて優勝を
獲得するには、各種の大会に積極的
に出場して場数をこなし、練習だけ
では得られない緊張感を養ってきた
からだといえます。

「舞台上上がる時の一発勝負の緊
張感と心臓の高鳴りは、毎回大変な
もの。そして練習にも緊張感が出る。
大会に出ること成長するんです」。
「でも20年、30年と積み重ねてい
るからこそ出てくる味というのもの
もある。40年も続けていると声に違い
が出てくる。やっぱり長く続けるこ
とで良さが出てくるものもあるん
ですよ」。

ふるさとに戻った今、「若い世代
の人たちに詩吟や剣舞を教えたい」
という思いが日に日に募っているよ
うです。

両親との同居を通して、福祉活動
への関心が高まるようになり、毎月
1度、妻七七代さん(64)とともに
介護老人保健施設を慰問し、剣舞と
フラダンスをお年寄りに楽しんでも
らっています。



7月の北海道地区大会予選会で初出場初優勝を
町長に報告(役場で)



全国大会出場に向けて連日猛練習しています
(B&G海洋センター)



開拓功労者、戦没者慰霊追悼式でみことな舞いを
披露しました(7月2日、開拓の碑前)

よこまく よしのぶ
横幕 義信さん/18区

東川町出身、64歳。日本大学法学部卒。7月31日、かでの2・7(札幌)で開かれた日本コロムビア全国剣詩舞コンクール大会北海道地区予選大会(日本コロムビア剣詩舞会・全国剣詩舞コンクール北海道実行委主催)で優勝(一般第3部)。聖月流の奥伝5段、号名・月玉。詩吟は峯鷲流石洲会準師6段、号名・悠峯。剣道2段。昨年9月に札幌市内から45年ぶりに帰郷しました。